

猛暑で子どもに健康被害

近隣で 未設置は加須市のみ

市内の小学校

さえき議員の調査によれば、昨年度一年間で、頭痛・腹痛・発熱・気分不快などの内科的症状で学校の保健室を利用した子どもの数が、最も多かったのは9月でした。これ

保健室 9月最多

夏の猛暑は、子ども達の健康をはじめ良好な学習環境を損ねています。いま子どもの教育環境を考えた時、教室のエアコン設置は当たり前です。ところが加須市は、設置していません。さえき議員は、教室のエアコンの設置について、市議会でも繰り返し求めています。教育委員会に対し、子どものことを最優先に対応するよう、つよく指摘しました。

要望 相次ぐ

また、この3年間、市に対して、教室にエアコンを設置して欲しいという要望が相次いでいます。生徒・保護者・PTA・市民などが、電話やメール、出前市長室、市政へ

子ども最優先に
その上で「子どものことを最優先に議論すること」をつよく求めました。

また、この3年間、市に対して、教室にエアコンを設置して欲しいという要望が相次いでいます。生徒・保護者・PTA・市民などが、電話やメール、出前市長室、市政へ

さえき議員は再度、「大事なことは市民の声を真剣に受け止め、何より子ども最優先のことを最優先に考えること。エアコン設置は、教育委員会への宿題にします。次に点検しますのぞきり」に指摘。



大熊敏夫教育委員長は「学校は子ども達が一日の大半を過ごす生活の場所であり、教育環境の整備改善は重要なこと。委員が情報を共有し議論をしていきたい」と答弁。

教室にエアコンを

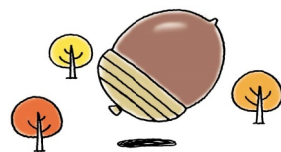
行田市、羽生市、鴻巣市、熊谷市、北本市、久喜市……来年度工事へ完了

「市民の声は宝」
全力で届ける



さえき由恵 議員

9月市議会が、来月6日まで開会中です。18日の本会議で、さえき由恵議員は市民から寄せられている声や願いを取り上げて、一般質問を行いました。その内容は、①教室にエアコンの設置を、②騎西地域の2園の幼稚園を引き続き活用を、③放射能の除染と費用は東電に請求を、④市道の環境保全を行う自治会に実費補助を1の4項目です。「市民の声は宝です」――さえき議員は市政に届け、実現をめざしています。



市政に対するご意見は
さえき由恵議員まで
加須市上種足1322-1
Tel 0480-73-1607

生活相談
お気軽に



ホームページ

さえきよしえ

検索

加須市議団

検索

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗

日刊●月 3497円
日曜版●月 823円

市道の管理に 自治会実費補助を



加須市は、市民との協働のまちづくりをすすめています。

市内には、7853本・延長2kmの市道が走り、これを市がすべて管理することは不可能な話です。

自治会の中には、良好な生活環境を形成するため、行政区内の市道について、草刈りや除草などを率先して行っているところがあり

ます。環境保全と交通安全対策に大きく貢献しています。自治会の方々は「私達ができることはやります。きつともちも助かると思います」と話しています。

このように、さえき議員は自治会から寄せられている声を紹介し、「活動には草刈りの燃料代や薬剤などの経費がかかります。活動を応援するため、必要な自

治体に対し、かかった実費をぜひ市から補助して頂きたい」と提案しました。

大橋市長は「道路の草刈りについては、自治会も市自体もどうしたらよいか悩んでいます。これは今後も継続する課題であり、自治協力団体とよく相談しながら、道路の適切な維持管理をすすめていきたい」と前向きに答弁しました。

来年度 新制度スタート

騎西中央幼稚園



騎西中央と南幼稚園

来年度4月から「子ども・子育て支援新制度」が始まります。新制度の趣旨は、「地域で子育てを支える」ことです。市は施行に当たって市内の就学前の5063人（14年7月現在）すべての子ども達に等しく、良質な保育・教育を提供しなければなりません。そのためには、いまある子育て基盤を質・量ともに拡充することが強く求められています。

騎西地域には現在、騎西中央幼稚園と南幼稚園が、地域の幼児教育を担って運営されています。

さえき議員は、この2園を引き続いて活用するよう、保護者の立場から提案しました。その理由は次の4つ。

◆先人達が築いてきた子育て基盤によって加須市には待機児童がいません。2園もその貴重な受け皿です。

◆来年度から新制度が始まり今後3歳児保育も視野に入れていくこととなります。そのためにも2園は必要。

◆そもそも子育ては身近な施設を保護者に提供することが、自治体の責任です。

◆子どもは社会の宝であり、教育はまちづくりの重要な柱。将来を見据え長期的な展望に立って取り組むこと。

さらに、さえき議員は合併前、5園あった幼稚園が2園に統合されたときの保護者の思いに触れ、「保護者は5園の存続を心から願っていました。これ以上、地

域の幼稚園をなくさないで欲しい……これは、保護者のつよい願いです。市長にこの声をしっかり受け止めて頂きたい」と述べました。

大橋良一市長は「新制度にあたり、今後の教育・保育の量の見込みと確保方策を見込んだ子ども支援事業計画の策定に向け、みなさまでご意見をうかがう中で、騎西地域の幼稚園のあり方について、あらためてご審議いただきたい。今後、遺漏なきよう整備をすすめていきたい」と答弁しました。

~~~~~

今回の市長の答弁は、合併協議における「1園統合」計画を白紙にする、第一歩と言えます。

## 騎西地域の幼児教育



# 2園引き続き

## 放射能汚染対策

### 学校や学童の4施設は除染を

原発事故から3年半、市は子ども達が生活する学校・幼稚園・保育所・学童・公園の計73施設についてホットスポット測定を継続。8月の12回目測定では毎時0・23マイクロシーベルト以上が4施設。さえき議員は「線量の高い施設がこの4施設に固定化してきた。ここを除染すれば市内のホットスポットはなくなっていく」と述べ、子ども達のため除染を求めました。しかし、市は難色を示しました。

### 1640万円！東電は全額払え

市が放射能汚染対策にあてた経費は、放射能を飛散させた東電が全額払う――当たり前のことです。

しかし、東電は市の請求額の内、11年度は353万円、12年度は491万円を未払いのままです。

そこで市は8月、13年度分対策費796万円に2年間の未払額計844万円を加算して1640万円を東電に請求。さえき議員は「東電に社会的責任を果たさせるまで県や他自治体とともに追い込んでいくよう」提案。市長は「従来から東電に全額の支払いを求めてきた。今後も継続する」と答弁。